

広 報 誌 つ く し

発行日 2026年1月31日発行

第54号

新年のご挨拶

医療法人つくし会 理事長

南国病院 院長 中澤 宏之



令和8年は60年に一度の丙午の年ですが、火の性質を持つ丙(ひのえ)と午(うま)が重なり、情熱や強いエネルギーに満ち物事を明るみに出す年になることが期待されています。皆様にとって、今年がエネルギーに満ちた素晴らしい一年となることをお祈りしています。

今年は当院にとって、診療機能が強化される節目の年となります。4月には脳神経内科に県内で数多くの実績を持つ葛目大輔先生が着任し、現在育休中である

山崎加子先生が復帰する予定です。脳神経内科が3人体制となることで、当院脳神経内科の外来・入院機能が強化され、これまで以上に県内の脳神経内科医療に貢献できることを楽しみにしています。消化器内科については、令和7年1月から外来患者数、外来での内視鏡検査件数が飛躍的に増加し当院の内科診療が充実しましたが、本年も消化器内科の専門的医療、かかりつけ医機能をしっかり担っていききたいと思います。

今年の事業計画としては、魅力のある職場、働きやすい職場づくりに向けた対策に取り組めます。病院DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進させ業務の効率化、DXを利用したコミュニケーションの活性化を図っていきます。今年も学会出張、研究発表、学術研修を積極的に支援し、若い職員の皆様が無理なくキャリア形成できる環境づくりに取り組んでいきます。

6月には診療報酬改定を迎えます。令和7年度補正予算での「医療・介護等支援パッケージ」に続いて、基本方針は物価や賃金、人手不足などの医療機関を取り巻く環境の変化への対応となりますが、我々民間病院が経営を安定させることが地域医療の維持には不可欠であり、改訂にしっかり対応したいと思います。

令和8年は超・後期高齢社会に向かい高齢者人口が増え続ける一方で生産年齢人口が急速に減少局面へと移行する重要な節目の年となります。地域の医療提供体制、我々の働き方、国民の価値観が変わりゆく中で、地域に求められる医療を続けられるよう、この一年も職員一同努力してまいります。本年もご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。

目次

第9回 地域オープンセミナー	2
第66回 全日本病院学会in北海道	3
第20回 医療の質・安全学会学術集会	3
第13回 日本難病医療ネットワーク学会学術集会	4
神経難病医療従事者研修に携わって	4
のいち動物公園へ 第18回 フレンドCup高知オリックス野球観戦	5
職員旅行	6
忘年会	7
診療のご案内	8

第9回 地域オープンセミナー

2025.11.15(土)

南国病院 在宅医療支援センター・センターホール



講演 I

「脳神経内科で扱う疾患について」
～認知症・パーキンソン病を中心に～

南国病院 脳神経内科医師 三好 利昌



講演 II

「抗生剤の副作用と偽膜性腸炎」
～便秘について～

南国病院 内科部長 中城 一男

学術研修委員会委員長

副院長・精神科部長 玉元 徹

今年度の地域オープンセミナーは院内の先生方のみで講演が行われました。それだけ当院の医療体制が充実している証拠とも言えます。



講演1の「脳神経内科で扱う疾患について」という演題名と「認知症・パーキンソン病を中心に」という副題で、脳神経内科の三好利昌先生が発表されました。一般の方には区別のつきにくい、心療内科と精神科と脳神経内科の違いについてなど、私にはできないうまい表現で聴衆の方にわかりやすく伝わったと思い、とても感動しました。

講演2は「抗生剤の副作用と偽膜性腸炎」という演題名と「便秘について」という副題で、内科部長の中城一男先生

が発表されました。日本で初めて便秘で偽膜性腸炎を治すことに成功してきたとのことですが、難しい内容もわかりやすくユー



モアも交えながらテンポよく芸能人のようにお話されて、さすがだなあと感心しました。

演者のお二人は普段大変お忙しいところ、本当にお疲れ様でした。当院の職員や地域の皆様方を盛り上げてくださって、本当に感謝申し上げます。

【 南国病院職員からの意見・感想 】

- 一般の方も、たくさん来られていて良かった。今後、「便秘」についての問い合わせが増えはしないかと心配です。
- 講演 I . パーキンソンの進行については、とても解りやすい内容だった。薬の説明も良かった。
- 講演 II . 抗生剤の種類、副作用が、大変参考になりました。
- 認知症とアルツハイマーの違いなど、大変判りやすく理解できました。今後の参考になった。便秘は、副作用も少なく、素晴らしい発見だと思います。



第66回 全日本病院学会in北海道

2025.10.11(土)～12(日)

札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター

「温故知新 ～ その先の、道へ。北海道から新風を～」

看護部長 小松 匡輔

今回の全日本病院学会のテーマは「温故知新」で、北海道での地域医療の変遷についての説明は興味深いものでした。広大な土地のためドクターヘリが早くより導入され、現在もドクターヘリや遠隔医療、ICTを活用した医療連携ネットワーク、地域包括ケアシステムなど、多彩で先進的な取り組みがされていました。主に看護の発表を聞きましたが内容に医療DXやAIを活用して何が変わったかなどの発表が明らかに昨年より多くあり、医療現場でもICTの波が本当に押し寄せていることを実感しました。

特に印象に残ったのは、病棟でインカムを導入し残業時間が減ったことや、ナースコールの対応が早くなり結果患者さんのためになったり、スタッフを探す時間が短縮されたりと有益なことが多いとのことでした。インカムは高知県でも導入している病院が増えているので当院も検討していく必要があるのでは

ないかと思いました。

また、音声認識する生成AIを使って看護記録・サマリーの作成、紹介状の作成などさまざまな業務をAIが代わってすることで人員削減や業務の時間短縮に繋がったことと

これら生成AIやインカムの導入の背景には人員不足があります。今後も少子高齢化がすすむに連れて医療DX化はますます続いてくと思われます。人口減少社会の医療現場においてICTの活用による業務の効率化は必須であり、当院もこの波に乗らなければいけないと実感しました。

研修に参加させていただきありがとうございました。



第20回 医療の質・安全学会学術集会

2025.11.8(土)～9(日)

京都市勧業館みやこめっせ

「サステイナブルな質の改善と患者安全」

2病棟看護主任 井上 奈緒子

令和7年11月8・9日と第20回医療の質・安全学会学術集会に参加させていただきました。

今回は京都で開催！インバウンドで外国人観光客も多く、現地で働くスタッフは流暢な英語で外国人観光客をもてなし、宇治抹茶や京都御所、稻荷神社など古き良き都を堪能してきました。本題の学会はというと…会場は全国からたくさんの医療従事者が集まって大変な賑わいとなっていました。また医療安全への意識や関心の高さが見えた気がします。講演は各ブースに分かれ興味、関心のある講演を聴きました。人気の講演はブースも混み合っていましたが多方面から多角的

なアプローチでの医療安全への取り組みや研究発表を聞くことができました。医療安全について興味を持ち楽しく学ばせてもらいました。今回医療の質・安全学会学術集会に参加させていただきありがとうございました。良い知識と思い出ができました。今後の看護活動に反映できるよう日々邁進したいと思います。



第13回 日本難病医療ネットワーク学会学術集会

2025.11.28(金)～29(土)
大津市民会館・大津公民館



「日本難病医療ネットワーク学会学術集会」に参加して

2病棟看護主任 池内 和子

日本難病医療ネットワーク学会学術集会に参加し、難病医療が「専門性」と「地域連携」の両方で成り立っていることを改めて実感しました。最新の治療や支援体制の報告だけでなく、患者・家族の生活に寄り添う視点が多く語られていました。特に、多職種連携や在宅・入院の支援の重要性が強調され医療者だけでなく行政や福祉との連携が不可欠であると感じました。現場の実践報告からは、日常の関わりの中で、信頼関係を築くことの大切さを学びました。今回の学びを今後も患者が安心して生活できるよう、ケアや支援に繋げていきたいと思います。このような貴重な研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

神経難病医療従事者研修に携わって

2025.10.20(月)～21(火) 8名 2025.11.17(月)～18(火) 8名

主催：高知県健康政策部健康対策課

3病棟看護主任 田井計行

昨年10月と11月に実施した神経難病医療従事者研修には、病院・医院、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護など、さまざまな現場から看護師・理学療法士の皆様にご参加いただきました。研修生との意見交換では、訪問看護における家族対応

の難しさ、人工呼吸器に関する疑問、ACPIに関する情報が十分に引き継がれていない中での意思決定支援など、現場での切実な悩みについての話を聞く機会がありました。多職種の講義を通して、神経難病について学ぶ機会や、日々の実践を振り返る場が少ない中で、今回の研修は貴重だったという声が聞かれました。また相談先が少ないことに不安を感じ



ている方もおり、講師からの「困った時は電話で相談してほしい」と声をかけてもらったことが、研修生にとってありがたかったとの感想もありました。今回質問も多く、



院長をはじめ講師の先生方には、講義中だけでなく講義以外の時間にも丁寧に質問に対応していただき、感謝致します。返答に対して、研修生から感謝の言葉が聞かれました。病棟見学では二つの特殊疾患病棟が病棟の枠を越えて連携・協力しました。見学に向けた調整や準備を行った担当者の対応により、研修生から病棟に対しても、よい感想が聞かれる場面もありました。また、研修生が安心して学べるよう協力してくださった病棟スタッフの皆さん、ありがとうございました。



のいち動物公園へ

2025.11.6(木)
香南市野市町

精神科デイケア室 看護師 永森 千恵

11月6日にのいち動物公園に行きました。1時間程の滞在で広い動物園を探索しました。それぞれメンバーさんの見たい動物を求めてナマケモノやテナガザルを見に行ったり、時計の下でペンギンを見ながらアイスクリームを楽しむメンバーさんもいれば、キリンの場所が入口から遠くやっとの思いで辿り着くメンバーさんもありました。限られた時間の中迷わずに戻るのも大

変でしたが、可愛い動物たちに癒やれ終始笑顔で帰りの途につきました。

メンバーT・Kさんより
「テナガザルがうるさかった。リスとか小さい動物がいてモルモットが可愛かった。」



第18回 フレンドCUP高知

2025.12.12(金)
高知市東部総合運動場体育館くろしおアリーナ

主催:高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター

精神科デイケア室 作業療法士 北川 結大

12月12日にくろしおアリーナで行われた第18回フレンドカップに参加してきました。「ポッチャ」と「モルック」の2競技に各1チーム計6名のデイケアメンバーで参加しました。「ポッチャ」は当院デイケアでも馴染みが出来てきたスポーツですが、今回新たに「モルック」が追加されました。フィンランド発祥のスポーツで、数字の書かれた木のピンを木の棒で倒し点数を競う競技です。参加したメンバーからは「上手く棒を倒せたら気持ちいい」「奥が深い」と好評でした。結果は「ポッチャ」「モルック」共に予選リーグで敗退してしまいましたが、選手として

出場したメンバーからは「次頑張る」といった肯定的な意見が聞かれました。

メンバーK・Kさんより

「今回のフレンドカップでは新競技のモルックに出場しました。新競技ということもあり、ぶっつけ本番での参加となり手探り状態ではありましたが、交流戦で1勝出来ました。面白さが分かってきたところなので、続けていければと思います。」



オリックス・バファローズ2025高知秋季キャンプ観戦

2025.11.6(木)
INOUE・東部スポーツパーク野球場



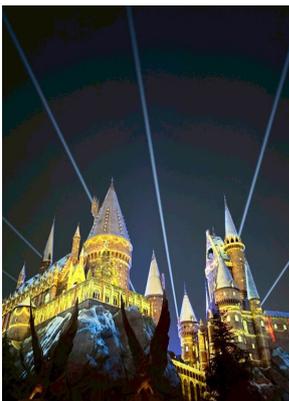
精神科デイケア室長
精神保健福祉士 竹村 哲也
オリックス・バファローズの秋季キャンプが高知県で11月6日から開催されました。デイケ

アの月間予定にはキャンプ見学を入れていなかったが、サブライズイベントとして提案すると「行きたい!」「行ってみたい!」と声上がる。キャンプではコーチとのやり取りを近くで見られ、リラックスした雰囲気なので、選手同士の会話や笑顔

など距離が近いからこそ感じられる魅力がありました。間近なのに望遠レンズで写真撮ってるファンにびっくりし、球場が狭く感じるほどプロのすごさをみんな感じる貴重な機会になりました。

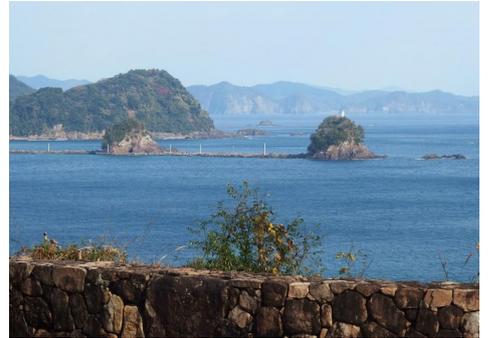
メンバーイチローさんより
「さすがプロやね。実物すごいわ。みんなルーティンが大事なのね。」





黒潮本陣
2025.12.14(日)

本年度の職員旅行は
日帰り 4コース
1泊2日 2コース
子どもさんを含む172名
の参加がありました。
来年度も
皆で楽しみましょう！



忘年会
シリーズ
2025.12.22(月)

6年ぶりに復活した
忘年会
先生方も参加した余興や
豪華景品に
大盛り上がり！
2026年も
頑張りましょう！



診療のご案内

ホームページもご覧ください
<http://www.nankoku-hp.or.jp/>

診療科目	◆脳神経内科 リハビリテーション科	◆精神科	休日診療 なし（但し急患は診療いたします）	
	◆内科	◆消化器内科		予約診療 全科予約診療となっております
	◆放射線科			救急指定 なし
診療時間	月～金	午前 8:30 ～ 12:30 午後 1:30 ～ 5:00	健康診断 特定健診、胃がん検診(胃内視鏡検査)	
	土	午前 8:30 ～ 12:30	面会時間 感染状況により、面会方法が変更になります。 詳細はホームページにてご確認ください。	

診療科/曜日	月	火	水	木	金	土	
午前	脳神経内科	三好	中澤	吉村	中澤	三好	中澤 古谷 ※5
	精神科	藤田	石田	玉元	玉元	小松	中澤 小松 ※6 ※7
	内科 消化器内科	速瀬	速瀬 10:30まで 中城 10:30以降	中城 麻植 (啓)	速瀬 麻植 (啓)	速瀬	速瀬 中城 麻植 (啓) ※1 ※2 ※3
午後	脳神経内科			吉村 ※4	三好	古谷 ※5	
	精神科	玉元 赤松	玉元	石田	河合	石田	
	内科 消化器内科	速瀬	中城 麻植 (淳)	中城 麻植 (淳) (禁煙外来あり)	麻植 (淳)	速瀬	

備考

- ※1 速瀬医師の土曜日の診察は、第1・第3土曜日です。
- ※2 中城医師の土曜日の診察は、第2・第4土曜日です。
- ※3 麻植(啓)医師の土曜日の診察は、第5土曜日です。
- ※4 吉村医師の水曜日午後の診察は、第2水曜日です。
- ※5 古谷医師の診察は、連続した最終金曜日・土曜日で再診のみです。
- ※6 中澤医師の土曜日午前の精神科の診察は、再診のみです。
- ※7 小松医師の土曜日の診察は、第1・第3土曜日です。

■認定・指定

- 日本神経学会准教育施設
- 日本精神神経学会精神科研修施設
- 日本老年精神医学会認定施設
- 高知県神経難病医療ネットワーク基幹協力病院
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設

南国病院 理念

1. 安全で質の高い医療によって地域に貢献します。
2. 信頼関係に基づき暖かい医療を提供します。
3. 専門性を追求し自己研鑽に努めます。

■病床数

162床	2病棟	特殊疾患病棟 (I)
46床	3病棟	特殊疾患病棟 (I)
56床	5病棟	精神一般病棟 (15対1)
60床		

基本方針

1. 病院が地域の社会資源であるとの認識に立ち、本院の専門性を通して、地域の医療と福祉に貢献します。
2. 本院は、脳と神経及び精神の疾病や障害を主な診療対象として、その神経学的、精神医学的診断、治療と臨床的研究に努めます。
3. 個々の患者とその家族への十分な説明とそれに基づく納得の上での同意を前提として診療を行います。
4. 本院での医療行為は、科学的根拠に基づき、自由で暖かい生命倫理に立って行います。医療環境が常に清潔で、明るく保たれる様努力します。
5. 本院の職員は、常に自己の資質と医療技術の向上に努め、病める人々への奉仕者としての自覚を持ちます。

■診療実績 2025年度4月～12月

外来患者数	24,714 名
(内新患者)	1,020 名
1日平均入院患者数	152.3 名
精神科デイケア利用者総数	3,714 名
通所リハビリテーション利用総日数	2,982 名
訪問看護ステーションおおそね訪問延人数	4,720 名

発行元/医療法人つくし会 南国病院
 発行責任者/中澤 宏之(院長)

〒783-0004
 高知県南国市大塚甲1479番地3
 電話 (088) 864 - 3137 (代表)
 F A X (088) 863 - 3070
 (088) 802 - 8618 (地域連携・医療相談室)

